

令和 5 年度 ACTR

分類 番号	A1	取組 名称	戦争の記憶の記録化と次世代への継承の仕組み構築
研究代表者所属・職名：		文学部・准教授	氏名： 上杉 和央
研究担当者： 京都府立大学（小林啓治〔文・和食〕、川瀬貴也〔文・歴史〕、奥谷三穂〔文・共同研究員〕） 外部分担者・協力者（新谷勝行氏、長嶺睦氏、勝島勝彦氏、井尻智道氏、上甲典子氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府京丹後市、舞鶴市、南丹市、亀岡市など			
【研究活動の要約】			
<p>戦後 80 年まで 3 年となった今、戦争体験者、遺族、帰還者等の高齢化に伴い、体験を直接聞くことのできる機会が失われつつあります。本 ACTR では、沖縄戦を中心に、戦時中や戦後における体験者や遺族たちの経験を収集、分析することで、貴重な記録を後世に伝えていくための継承方法を研究し展示や平和学習に生かすことを目指しています。</p> <p>研究は 80 周年までの 3 か年を予定しており、その 1 年目の令和 5 年度は、戦争体験者、遺族の方々などへの聞き取り調査の実施と、沖縄戦に従軍した京都出身者の足跡の調査という 2 つの点を中心に実施しました。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>聞き取り調査については、京都府内にお住まいのご遺族・関係者 11 組にお会いすることができ、さまざまな記憶を聞くことができました。遺品や関連する資料についても拝見させていただくことができ、記憶とともにモノが語る記録もまた、重要であることを再確認しました。また、沖縄戦慰霊碑調査も実施し、とくに京都の塔の慰霊式典にも参加させていただき、関係者の方々にお話を聞かせていただきました。</p> <p>一方、沖縄戦で戦没した京都出身者の戦没日と戦没場所を調査し、それを地図上に落とすことで京都の兵士戦没マップの作成をおこないました。その結果、沖縄戦の展開とともに、京都出身者も沖縄県内を移動し、そして亡くなっていったことを可視的に示すことができるようになりました。</p> <p>こうした結果については、令和 6 年度以降に展示や平和学習に活かす予定でしたが、令和 5 年度、長岡京市の京都府長岡京市立長岡第四中学校からお声がけいただき、中学生にむけて成果の一部を含めた平和学習を実施することができました。</p>			
【研究成果の還元】			
R5.12.13	オンライン	ACTR 提案自治体・関係者等	約 10 名 「ACTR 中間報告会」
R6.2.7	京都府長岡京市立長岡第四中学校	中学生	140 名 「平和講演会」
【お問い合わせ先】 文学部 歴史学科 准教授 上杉 和央 Tel: 075-703-5278 E-mail: kuesugi@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）

現地調査時の写真（沖縄「京都の塔」慰霊追悼式）



ヒアリング時に拝見したご遺族がお持ちの遺品（ゲートル）



京都の兵士戦没マップ（一部）

